

第4回 津久見市総合計画審議会 議事概要

資料1

※回答欄の「－」表記については、意見として承ったため、回答なし

第3回第6次津久見市総合計画審議会議事録及び質問・意見への回答（資料1、2）関係

質問・意見	回答
資料内に「今後KPIの設定を検討する」とされているKPIもあるが、これらは実際に設定されたのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「空き店舗の活用件数」については行政のみでの数字の把握が難しいため、次期総合計画のKPIには設定しないこととしたが、今後関係機関と連携しながら、活用可能な空き店舗について実態把握を進めたいと考えている。 ・「つくみん公園でのイベント開催数」についてはKPIとして設定している。
津久見高校の存続に向けた取組を進めることについて、具体的な考えはあるか。 子どもたちは友人の進路に応じて自らの進路を決めているとの話を聞く。周辺自治体の学校の閉校が進む中で、遠い市町村への転出も見られているが、そこで、新たな専門科のカリキュラムを市内の学校に導入することも考えられる。	子どもたちが津久見高校を選んでくれるようにブランド化を模索しているところである。

第I章～第III章素案（資料3-1～3-3、3-6）関係

質問・意見	回答
序論において言及されているEBPMの考えはどのように計画に反映されるのか。	今回の計画策定において、Well-Beingの向上を全体の目標に置いた上で、各施策にWell-Beingに関連する指標を設定している。これがデータや合理的根拠に基づいた政策デザインであるEBPMを導入した計画策定である。
Well-Being指標の幸福度や生活満足度はKPIとして設定することを考えているか。	具体的な数値目標の設定は難しいが、毎年Well-Beingアンケート調査を行う予定であり、適切な運用を進めていきたい。

第IV章 総合戦略たたき台（資料3-4、3-6）関係

質問・意見	回答
施策分野1 保健医療において、地域医療体制の構築に関連するKPIは検討されたのか。候補に挙げたが設定されていないKPIについては、今後の対応に反映されるということか	KPIの数を絞るべきこと、医療の対策にはケースバイケースの対応が求められること等を考慮し、地域医療体制構築に関するKPIを設定しないと判断した。現時点で具体的な検討までには及んでいない。
KPIは2030年度に限らず、それまでの毎年度でも評価されるのか。	KPIは毎年評価し、年1回進捗状況報告の場を設け、ご意見を頂きながら、次期計画の進捗を適切に進めていく予定である。
施策分野20 公共空間・住環境について、今後積極的な取組が必要と考えるが、KPIにおいて空き家情報バンクの登録数・成約数の目標値が横ばいになっている理由をご教示いただきたい。	毎年15件の新規登録件数、及び毎年6件の新規成約件数を目標値として設定しており、目標値を横ばいで設定しているわけではなく、各件数の継続的な増加を目標に定めている。

質問・意見	回答
<p>施策分野5 子育て支援について、当初KPIに設定されていた「子どもの地域愛着度」が外された理由をご教示頂きたい。</p>	<p>「子どもの地域愛着度」はこれまで5年に一度実施していたアンケートによって数値を集めていたが、この毎年の実施が困難であること、また毎年対象者の属性が変化しうることを考慮して削除した。</p>
<p>施策分野16 商業や、施策分野20 公共空間・住環境にて中心市街地の賑わいが明記されていることは好印象である。それに関連して、古くからある地域資源だけではなく、津久見川などの新たな地域資源も活用していただきたい。また、大分市と周辺市町との通勤通学についてのデータを見た際に、大分市へ通勤・通学する市町がほとんどである中で、津久見市においては、大分市から通勤・通学する人が多いということがわかった。津久見市の周辺に人口が多いことがうかがえるため、それを考慮した具体的な施策検討が必要と考える。</p>	<p>—</p>
<p>施策分野12 地域経営について、公共施設の老朽化が見られる中でどのように管理するかという個別計画はすでに策定されているのか。</p>	<p>公共施設の管理計画の策定については現在検討中だが、具体的な施設の管理についてはまだ決まっていない。</p>
<p>施策分野14 水産業について、津久見ブランドの販路拡大とあるが、これは国内に限るのか。国際的な経営戦略も必要と考える。</p>	<p>水産業のブランド化については国内外いずれの販路拡大とも想定している。</p>
<p>施策分野13 農林業について、既存生産者が続けられるための支援についても施策に明記いただきたい。</p>	<p>既存生産者への支援も当然続けていきたいため、ぜひ今後検討させていただく。</p>
<p>施策分野20 公共空間・住環境の街なか観光拠点については、新市庁舎の中に拠点をつくるということか。</p>	<p>街なか観光拠点については、基本構想・基本計画が策定され、現時点で実現可能性調査が完了している。令和11年度以降の拠点整備完了・開業を目指し、みなとオアシス津久見のエリアー帯を含めた検討を進めている。</p>
<p>地域文化・伝統芸能について、人口減少の影響から担い手の不足が懸念されるが、この対策を各団体に任せるのではなく、行政も介入した対策が必要と考える。</p>	<p>—</p>

第Ⅴ章 総合戦略たたき台(資料3-5、3-6)関係

質問・意見	回答
総合計画の計画期間は10年なのに対し、総合戦略の計画期間は5年だが、今から5年後には総合計画の見直しを待たずして総合戦略が見直されるということか。	総合計画の計画期間は10年だが、基本計画は5年ごとに前期・後期に分かれるため、具体的な施策は5年ごとに見直される。
基本目標4「ゆかり」に記載されている、関係人口の創出に関わる具体的な文言がⅣ章の基本計画にはあまり見受けられない。例えばイベント等や、被災地における交流などによる関係人口の創出も考えられるため、基本計画内の具体的な施策でもぜひ記載いただきたい。	内容を精査し、基本計画での記載について検討させていただく。
人口減少のスピードは信じがたい。津久見市役所だけではなく、ぜひとも市民全体を巻き込んで計画策定及び運用を進めていただきたい。	—
人口減少の対策としての企業誘致は有効になりうる。少しでも人口流出を防ぎ、流出したとしても津久見市に帰ってくるというビジョンが市民にも共有されればよい。	—
津久見に住んで、働きながら子育てまたは介護を安心してできるような仕組みがつくられればよい。20～40代の女性が働ける環境を整えることが重要である。	—
小学生の給食費無償化について、想定はあるか。	来年度に向けて制度設計が国から指示されているため、それに基づいて取組を実施していきたい。